

# ヒメジョオン

*Stenactis annuus*

キク科

## 名前の由来

江戸時代に導入され、その頃「柳葉姫菊」とよばれていた。ヒメジョオンの名は、その当時の名前と、同じキク科のシオン（紫苑）から由来すると思われるが、詳細は不明。同じキク科の植物にヒメシオンがあるが、別種である。漢字名：姫女苑



ヒメジョオン。花の大きさは2cm内外

## 形態的特徴

高さは50～130cmで全体にやや粗い毛があり、ざらつく。茎は中実で、白い髄がある。茎葉は披針形で上部の葉には柄が無いが、下方では長い柄がある。頭花は茎上部の枝先にまばらにつき、径2cm内外。花の中央部に黄色の筒状花が円形に集まり、その周りを白～淡紫色の細長く繊細な花びらを持つ舌状花が取り囲む。多数の花が一面咲き乱れる

光景がよく見られる。

類似種と見分け方：ハルジオン。

ハルジオンの茎は中空、葉の基部は茎を抱く。ヒメジョオンは茎の内部に白い髄がつまっております、葉の基部は茎を抱かない。

## 生育環境・分布

草地や道端、河川敷、畑地などで普通に見られる。

地などいたるところで普通に見られる。

分布：国外分布は、北アメリカ原産で世界中に広く帰化している。

国内分布は、日本全土。

北海道内分布は、全道。

十勝地方生育状況は、草地や道端、河川敷、畑

## 生活史

開花時期：7～9月。開花までの年数：1～2年。

寿命：1～2年草。

## 他生物との関わり

花には虫が訪れる。



ハルジオン(左)とヒメジョオン ヒメジョオン(上)とハルジオン(下)

## 興味深い話

■江戸時代末期の1865年ころに観賞用に導入され、柳葉姫菊と呼ばれて珍重された。

■明治から各地に広がり、今では全国で普通に見られる。

■茎が伸びる前の若い苗は食べられ、ゆでておひたしや酢

の物にしたり、生のままてんぷらにすると美味しい。

■北アメリカでは結石や利尿剤として使われたという。

■開花期のものを乾燥させて煎じて飲むと、糖尿病の予防効果があるとされる。

## 生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

## 参考文献

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001

「北海道帰化植物便覧 2000年版」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2000

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜細亜社 2002

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葦原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ